様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年９月２６日現在

機関番号：１６１０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20592587
研究課題名（和文）
思春期学生のセクシュアル・ヘルスの問題をめぐる対処意識の向上を図るための介入研究
研究課題名（英文）
Intervention study to attempt improvement of coping consideration over problem of adolescence student's sexually Health
研究代表者
石走　知子（　ISHIBASHIRI TOMOKO　）
徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・講師
研究者番号：00335051

研究成果の概要（和文）：200 字
一般高校生を対象に，性感染症問題での対処意識の向上を図るための性教育を行い，介入群の変化の分析および，介入群と非介入群の比較を行うことにより，性教育の評価を試みた。その結果，対処意識は性教育介入直後に最も向上するが，4 ヶ月後には「知識」「対処選択」は性教育の効果が維持されるものの，介入しなかった者とほぼ同一の対処意識のレベルに戻ることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The sexually education to attempt the improvement of the coping consideration of the sexually transmitted disease problem was done for a general high school student.
And, the evaluation of the sexually education was tried from the comparison of the analysis of the change in the intervention group and the intervention group and non-intervention group.
As a result, it was clarified to return to the level of almost the same coping consideration as the person who had not intervened it though the effect of the sex education would be maintained in four months as for "Knowledge" and "Coping selection" though the action consideration improved most immediately after intervention of the sexually education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：思春期学，母性看護学，助産学
科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学
キーワード：思春期，性感染症，対処意識，対処行動，受診行動，性教育，介入研究

１．研究開始当初の背景
わが国における思春期の性行動は早期化の一途をたどり，性感染症の増加も止まっていない。厚生労働省が発表した健やか親子２１の中間評価でも，「性感染症」・「避妊法」に関する知識の普及，「若年者の中絶」が減少した要因分析など引き続き検討が必要とされた。学校における性教育の強化や地域保健との連携といった予防教育での周知と共に，専門家や医療機関での対応を必要とするケースは増加している状況であると思われる。われわれの研究（H.16-18 科学研究補助金・若手研究(B)）によると，思春期学生のセクシュアル・ヘルスにかかわる問題での医療機関受診経験は,高校男性 1.1%,大学男性 2.9%,高校女性 4.2%，大学女性 17．5%と，男性でも少数ながらも存在し，大学女性に至っては急激に増加することがわかった。しかし，医療機関受診のイメージについて尋ねたところ，高校生・大学生男女ともに“セクシュアル・ヘルス問題に関する知識の少なさ”，“性の問題を相談することへの羞恥心”，“医療機関の受診に対する恐怖心”“保険証を使うことへの抵抗感”などネガティブな要素が強く存在することもわかり，専門家への相談や医療機関への受診の際に影響を及ぼすことが予測された。思春期学生を対象とした性の問題に関する調査は，国内外共に数多く研究がなされている。しかし，受診行動に関する研究については，国内外ともに調査・報告は少なく，男子学生を対象としたものはさらに少なく，国内でも皆無の状況であった。性の問題に関する予防教育に重点を置く研究が多い中で，問題が起こった場合に速やかに対処できる能力を高める性教育も必要であろうという観点から，対処意識の向上を図るためのプログラム開発とその効果を評価するために本研究は開始された。

２．研究の目的
１）セクシュアル・ヘルス問題についての知識提供から医療機関受診に至るまでの過程を，思春期学生の発達や状況に合わせた介入（性教育・健康教育）を行い，セクシュアル・ヘルスの問題への対処意識が高まるかを，介入群の変化の分析および介入群と非介入群の比較を行うことにより，性教育の評価と判定を行う。
２）介入においては，鹿児島県との共同事業であるピアカウンセリング活動を導入し，地域貢献を図る。
３）これらの結果を踏まえ，学校保健との連携を含めたアプローチを考察することにより，セクシュアル・ヘルス問題を抱える思春期の学生への効果的な性教育を考察する。

３．研究の方法
１．調査対象
九州 A 県公立 1 校･私立 2 校の高校生男子 182 名（介入群 88 名，非介入群 94 名）女子 462 名（介入群 252 名，非介入群 210 名）
２．研究方法
１）介入方法
鹿児島大学ピアカウンセリングサークルメンバー16 名（医療系大学生）に対して，本研究の介入活動内容（ビデオマニュアルの視聴）・資料作成・調査についての打ち合せを行い，ピアエデュケーションによる 70 分間の（調査回答時間含む）介入を予定した。
介入群：質問紙調査を「介入前」・「介入直後」・「介入 4 カ月以降」の 3 回に同一内容の質問紙調査を実施する。
非介入群：介入群と同一内容の調査を「介入前」･「介入 4 カ月以降」の 2 回に実施する。アンケートにおいては，介入群・非介入群ともに，個人が特定されない番号をラベリングした上で，無記名式質問紙集合調査を行い，介入時期における個人変化が追跡できるようにした。
２）介入内容・介入パンフレット
講義プログラム内容（介入内容）は，①STI の特徴・症状，②STI の予防，③STI の悩み相談，④受診のめやす・治療について，を提示し，問題が起こった場合の対処行動のイメージができるように構成した。講義内容およびパンフレットは，産婦人科医師，性教育に精通した有識者の助言も加えた。
３）調査内容
基本属性（性交経験，性の問題での受診経験，個別保険証の有無，性感染症の遭遇経験），男女別の性感染症（男子：淋菌感染，女子ｸﾗﾐｼﾞｱ感染）を設定したシナリオを提示し，認知的評価測定尺度（以下，CARS），状況遭遇不安，対処行動の選択，保険証の利用，受診イメージ，性感染症に関する知識についてである。
４）分析
統計ソフト SPSSstatistics17.0 を用い，無回答は除き，t 検定，1 要因分散分析，②要因分散分析および体重比較を行い，有意水準を 5%未満とした。
５）倫理的配慮
調査にあたっては,対象生徒・学生，学校長，教諭，大学教員に文書をもって説明を行い許可を得た。調査の趣旨に賛同できない生徒・学生は，アンケートを無記入にすることで拒否する権利を持ち，回収は個人で密封して提出できるよう配慮し，また得られた結果は学会等で公表することを文書で伝えた。本調査は，性に関連した内容を含むため，調査後のアフターケアとして，心理学系大学教員を窓口としたカウンセリングが行える体制

を用意した。また，本研究は，K 大学疫学・臨床研究等に関する倫理委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

１）対象者の属性（表１）

介入群・非介入群に有意な差は認められなかった。先行研究と比較すると，性交経験は全国平均より低く，STI 遭遇経験は男子がやや高く，女子は低い傾向の集団であった。

表１　対象の属性

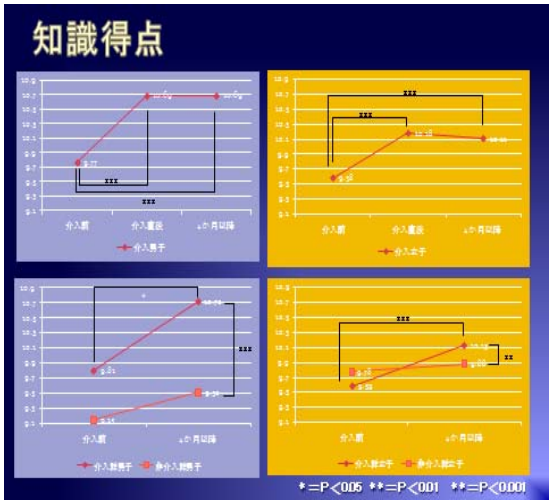
	男子（n=182）		女子（n=462）	
	介入群 (n=88)	非介入群 (n=94)	介入群 (n=252)	非介入群 (n=210)
学年　２年	88（100%）	92（97.9%）	177(70.2%)	75（29.8%）
３年	0（　0%）	2（2.1%）	136(64.8%)	74（35.2%）
性交経験あり	10（11.6%）	11（12.0%）	37（15.0%）	29（14.1%）
性の問題での受診経験割合	1（1.1%）	0（　0%）	7（2.8%）	11（5.3%）
個別保険証あり	72（83.7%）	70（76.1%）	219(89.0%)	177（84.7%）
STI 遭遇経験	4（4.8%）	8（8.5%）	36（14.6%）	28（13.7%）

２）知識得点（図 1-1. 1-2. 1-3. 1-4）

知識得点は，STI に関する知識を問うもので，症状に関する４項目，特徴に関する４項目，予防・治療に関する４項目の 12 項目について質問し，正解を１点として合計したものである。

介入群における変化は，男女共に介入直後が最も高く，４ヶ月後も維持されていた。

介入群・非介入群の比較では，介入群の得点が非介入群の得点より４ヶ月後も高い状況であった。

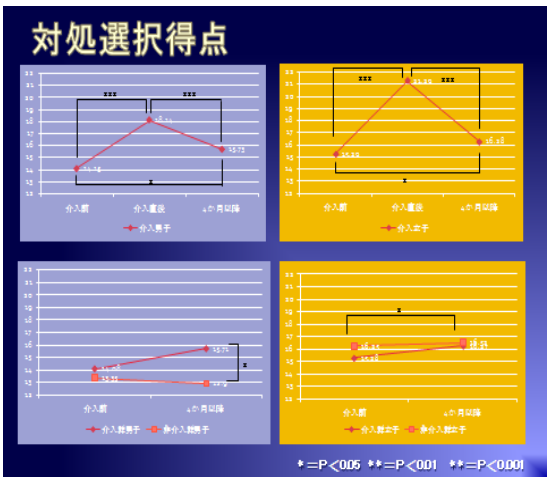


３）対処選択得点（図 2-1. 2-2. 2-3. 2-4）

対処選択得点は，「現状維持」「調べる」「相談」「行動」に関する対処 12 項目を「全くとらない」「あまりとらない」「いくらかとる」「かなりとる」までを 0～3 点で得点化し合計したもので 0～36 点の範囲をとる。

介入群における変化は，男女共に介入直後が最も高く，４ヶ月後にやや減少したものの，介入前より高く維持されていた。

介入群・非介入群の比較では，女子では有意な主効果は見られなかったものの，介入群の得点が非介入群の得点より４ヶ月後も高い状況であった。

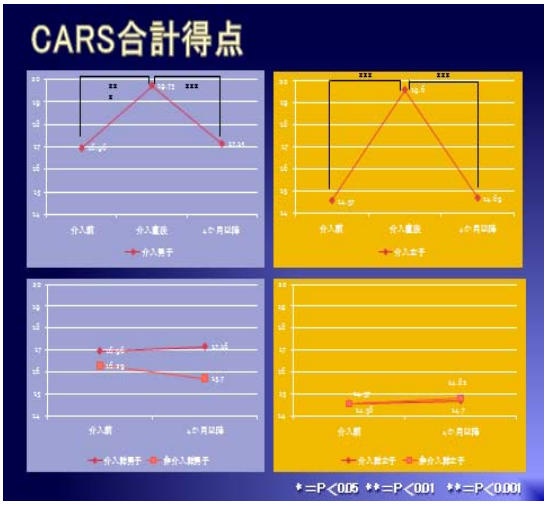


４）CARS 合計得点（図 3-1. 3-2. 3-3. 3-4）

CARS 合計得点は，個別状況の認知的評価を測る尺度で，「コミットメント」「影響性の評価」「脅威性の評価」「コントロール可能性」の４つの下位項目を持ち，合計得点の範囲は 0～24 点となる。

介入群における変化は，男女共に介入直後が最も高かったが，４ヶ月後には介入前と変わらなくなった。

介入群・非介入群の比較では，男女共に有意な主効果は見られなかった。

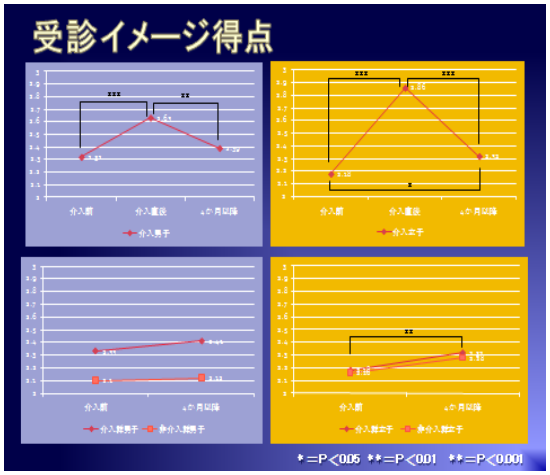


5）受診イメージ得点（図 4-1. 4-2. 4-3. 4-4）

受診イメージ得点は，STI で受診することになった場合に病院受診のイメージができるかを聞いたもので，「イメージできない」「あまりイメージできない」「いくらかイメージできる」「イメージできる」までを 0～3 点の範囲で示した点数になる。

介入群における変化は，男女共に介入直後が最も高かったが，4 ヶ月後には介入前と変わらなくなった。

介入群・非介入群の比較では，男女共に有意な主効果は見られなかった。

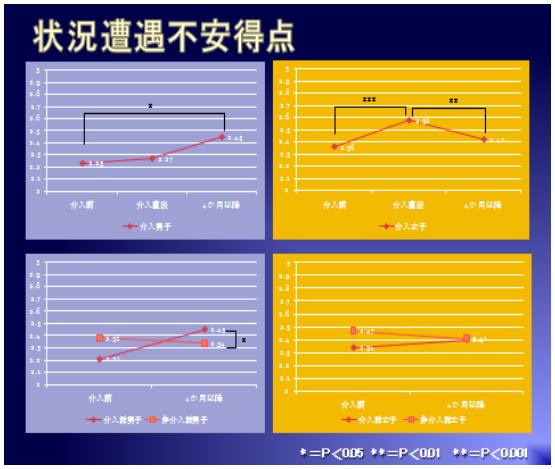


6）状況遭遇不安得点（図 5-1. 5-2. 5-3. 5-4）

状況遭遇不安得点は，問題状況に直面した場合，どれくらい不安を感じるかを問うたもので，「全く感じない」「あまり感じない」「少し感じる」「強く感じる」までを 0～3 点の範囲で示した点数になる。

介入群における変化は，男子は 4 ヶ月後に最も高くなり，女子は直後がもっとも高く 4 ヶ月後は介入前と変わらない状況になった。

介入群・非介入群の比較では，男女共に，加入群がやや高くなり，男子では有意な主効果がみられていた。



7）結果要約

①介入群の変化については，「知識得点」「対処選択得点」「CARS 合計得点」「受診ｲﾒｰｼﾞ得点」「状況遭遇不安得点」の全項目について介入直後に上昇がみられた。4 ヶ月後も維持されたのは「知識得点」「対処選択得点」のみであった。

②介入群・非介入群の比較では，「知識得点」「対処選択得点」「状況遭遇不安得点」に介入群の効果を認めたものの，「CARS 得点」「受診ｲﾒｰｼﾞ得点」は効果を認めなかった。

8）考察

対処意識向上ための性教育プログラム作成と性教育実施により，介入効果がみられた。

また，対処意識は性教育介入直後に最も向上するが，4 ヶ月後には「知識」「対処選択」以外は，介入しなかった者とほぼ同一の対処意識のレベルに戻ることが明らかになった。

このことから，対処意識向上のための性教育は，対処意識の最も高くなる介入直後に，生徒が自ら対処行動をとれる季節休暇や連休前に合わせて実施されることが必要と考えられた。

さらに，今後の対処意識の定着のために，仮性包茎や月経などの身体発達問題や妊娠問題などを組み合わせた対処意識向上のための性教育プログラム作成と性教育介入を行っていく必要性も示唆された。

5．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

1．石走知子，松尾博哉：思春期・青年期学生の性の問題における対処行動ならびにストレス認知に関する研究，思春期学，28(3)，307-317，2010，査読有

2．石走知子：思春期・青年期学生の性の問題に関連した医療機関受診に対するバリアと促進要因，日本性感染症学会誌，21(2)，34，2010，査読無

3．石走知子，松浦賢長：思春期の性の問題に関連する受診行動についての海外・国内における研究動向，思春期学，27(1)，71-72，2009，査読無

4．井上尚美，石走知子，三浦陽子，若松美貴代，下敷領須美子，吉留厚子：思春期・青年期学生の性の問題に関連する受診行動に関する研究－診療科選択，病院への希望，および病院受診イメージと対処行動との関連－，日本助産学会誌，22(3)，467，2009，査読有

〔学会発表〕（計８件）

１．石走知子，若松美貴代，三浦陽子，井上尚美，下敷領須美子，藤野敏則，吉留厚子，有倉巳幸：高校生の性感染症問題での対処意識の向上を図るための介入研究，第30回日本思春期学会総会・学術集会，福岡市，2011.8.27

２．石走知子：新たな時代の性教育を考える－性感染症の予防と受診を中心に－；思春期・青年期学生の性の問題に関連した医療機関受診に対するバリアと促進要因，第23回日本性感染症学会・学術大会・シンポジウム（シンポジスト），福岡市，2010.12.12

３．松浦賢長：新たな時代の性教育を考える－性感染症の予防と受診を中心に－，第23回日本性感染症学会・学術大会・シンポジウム（座長），福岡市，2010.12.12

４．井上尚美，石走知子，若松美貴代，三浦陽子，下敷領須美子，吉留厚子：思春期・青年期学生の性の問題に関連する受診行動に関する研究－診療科選択，病院への希望，および病院受診イメージと対処行動との関連－，第23回日本助産学会・学術集会，福岡市，2009.3.22

５．石走知子，松浦賢長：女性の性の問題に関連した受診行動についての国内・海外文献レビュー，第49回日本母性衛生学会総会・学術集会，浦安市，2008.11,7

６．若松美貴代，石走知子，三浦陽子，井上尚美，下敷領須美子，藤野敏則，吉留厚子，戸高祐子，有倉巳幸：思春期学生の性の問題に関連する受診行動に関する研究－医療系女子大学生と一般女子学生との比較－，第49回日本母性衛生学会総会・学術集会，浦安市，2008.11.7

７．三浦陽子，石走知子，若松美貴代，井上尚美，下敷領須美子，藤野敏則，吉留厚子，戸高祐子，有倉巳幸：思春期学生の性の問題に関連する受診行動に関する研究－小遣い，保険証利用，親との関連についての一考察－，第49回日本母性衛生学会総会・学術集会，浦安市，2008.11.7

８．石走知子，松浦賢長：思春期の性の問題に関連する受診行動についての海外・国内における研究動向，第 27 回日本思春期学会総会・学術集会，千葉市，2008.8.31

〔図書〕（計　0件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0件）
○取得状況（計　0件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
石走知子（ ISHIBASHIRI TOMOKO ）
徳島大学・ヘルスバイオサイエンス研究部・講師
研究者番号：00335051

(2)研究分担者
有倉巳幸（ YUKURA MIYUKI ）
鹿児島大学・教育学部・教授
研究者番号：90281550

若松美貴代（ WAKAMATSU MIKIYO ）
鹿児島大学・医学部・助教
研究者番号：50433074

三浦陽子（ MIURA YOUKO ）
鹿児島大学・医学部・教務職員
研究者番号：70244275

井上尚美（ INOUE NAOMI ）
鹿児島大学・医学部・講師
研究者番号：70264463

下敷領須美子（ SHIMOSHIKIRYO SUMIKO ）
鹿児島大学・医学部・准教授
研究者番号：10315418

藤野敏則（ FUJINO TOSHINORI ）
鹿児島大学・医学部・教授
研究者番号：90165407

吉留厚子（ YOSHIDOME ATSUKO ）
鹿児島大学・医学部・教授
研究者番号：40305842

(3)連携研究者
松浦賢長（ MATSUURA KENCHO ）
福岡県立大学・看護学部・教授
研究者番号：10252537